



正副会長の活動状況

— 会務報告 —

日本弁理士会副会長

船津 暢宏

1. はじめに

2019年度日本弁理士会の副会長の船津です。

さて、知的財産(知財)を取り巻く環境は、大きく変化しています。特許で市場独占できるのは製薬などの一部に限られ、エレクトロニクス業界では特許を数多く保有している企業でも市場独占を果たせていません。

知財は意味を失ったのでしょうか? 米国のIT業界の状況を顧みれば、コアビジネスを知財と契約でマネジメントし、オープン&クローズ戦略をグローバルに展開し、市場をコントロールして進化し続ける企業が数多くあります。

正に、1件の知財であっても活用次第では戦略的意義が増大しています。しかしながら、知財マネジメントの現場では、新時代の戦略を促進する知財サポートが十分に為されていないため、かえって知財のプレゼンスが低下している嫌いがあります。

日本弁理士会としては、新時代に対応した会務運営を迅速に進めて行くことが急務です。

2. 会務報告

担当は、中央知的財産研究所、選挙管理委員会、財務委員会、不正競争防止法委員会、知財プレゼンス向上委員会、監事会、九州会です。

【中央知的財産研究所】

中央知的財産研究所は、長期的及び国際的視野から、内外の知的財産及び弁理士に関する諸問題についての調査・研究・情報の提供並びにこれらに関連する諸事業を行うことにより、知的財産権制度及び弁理士制度の健全な発展に資する活動を行っています。

当研究所は、弁理士で構成される内部研究員と、大学教授等の学者・弁護士・裁判所・特許庁出身者等で構成される外部研究員とが共同で知財に関する研究を行っています。

本年度のテーマは、「超スマート社会 (Society5.0) に適合する知的財産保護の制度のあり方」「日本商標法の未来のための方策検討」「知的財産と経済=知的財産競争とイノベーション=」で、8月のAI関連発明の発表会は先進的でありました。

また、研究成果の論文を発表する別冊パテントをホームページで早期公開する手を整備しました。

【選挙管理委員会】

選挙管理委員会は、例年予定されている役員選挙の告示や説明会、立候補者の受付、投票の管理等を行う委員会です。

本年度は、投票が行われますので、投票・開票をスムーズに行えるよう対応を進めております。

また、近年の選挙における投票率の低さが気になります。投票率の改善に向けて検討する必要性を感じます。

【財務委員会】

財務委員会は、日本弁理士会の財政状況について把握するとともに、会の財産全体について検討する委員会です。

昨年度の会計処理運用検討ワーキンググループの報告書を受けて、本年度は、会計処理の管理・運用手続の見直しを検討し、更に予備費、事業の棚卸のルール化、財務改善専門員等を検討します。

また、ITによって進化する会計処理にも対応して行けるよう、財務委員会で検討する必要があると考えています。

【不正競争防止法委員会】

不正競争防止法委員会は、不正競争防止法(不競法)に関する政策提言の作成、調査研究等を行う委員会です。

昨今における AI や IoT 等の技術の飛躍的進歩、ビッグデータの取り扱いの複雑化等に、特許だけでは顧客のビジネス展開をサポートすることが困難になっている現状から著作権、不競法の活用が極めて重要になっています。そのニーズに応えるため、不正競争防止法委員会では様々な角度から検討を進めています。

今後は、ビッグデータの活用事例等をヒアリングなどして収集し、弁理士の活動に生かせるよう検討を進めます。

【知財プレゼンス向上委員会】

知財プレゼンス向上委員会は、知的財産（知財）のプレゼンスを向上させるために、企業、アカデミア、特許事務所の弁理士が共同して検討する新設の委員会です。

本年度は、オープンイノベーションの観点から検討を進め、8月の委員会では、清水会長に出席して頂いて、全員が各自の提言をプレゼンしました。後半は、外部との意見交換会を開催して、知財プレゼンスの向上を深く検討して行きます。

【監事会】

監事会は、選挙で選出された10名の監事と2名の外部監事によって構成されており、毎回、会務監査と会計監査とが行われます。私は財務担当として毎月の会計状況を報告して監査して頂いております。

監事会に出席して、役員の実行は全て監査の対象であり、その実行に対しては公正かつ適正に説明する責

任があると認識させられます。

【九州会】

九州会では、6月に職員を採用し、10月の総会で承認されれば、年内には同じビル内で九州会事務所を移転する予定です。平成24年に153名であった九州会会員が本年9月時点では265名と増大し、「く」の字に折り曲がった手狭なオフィスから少し広めの使い勝手の良いオフィスに移転できれば、九州会の活動は益々活発になります。

9月に九州経産局、福岡県、福岡市のスタートアップカフェを訪問し、九州会の会員と意見交換しました。第4番目の会員数を擁する地域会として、本会と連携しながら地域産業の活性化に向けての活動を期待しています。

3. おわりに

技術は、私達が想像する速度を超えて進歩しており、様々なテクノロジーの進化の融合によって社会構造の変革を引き起こす可能性もあります。そのような技術の変化の激しい環境にあって、未来志向で、しかも現場感覚を失うことなく、産業の発達に貢献できる会務運営を心掛けて参ります。

最後になりましたが、会員の皆様には会務運営に多くのご支援とご協力を頂いておりますことに、心より御礼申し上げます。残りの任期も知財プレゼンスの向上に向けて取り組んで参りますので、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。